

当社は以下のシステムの開発を完了し、販売しております。

また、同システムを使用して実証実験を行った結果を 2008 年秋季「応用物理学会」で以下発表致しました。

《開発システム》

1. **マルチファンクション・キャリブレータ**の直流電圧設定レンジの自動校正とその校正結果の不確かさ評価を自動化するためのシステム。
2. 併せて、**DMM**の直流電圧測定レンジの自動校正とその校正結果の不確かさ評価を自動化するためのシステム。

《実証事項》

1. 分圧器は分圧比の温度係数が 0.02ppm/degC 程度、経時変化が 0.1ppm/年 以下という極めて優れた性能を持っていること実証しました。
2. 開発したシステムを用いたキャリブレータの直流電圧設定レンジの校正では、システム固有の不確かさ（95%信頼レベル下での拡張不確かさ）が 10V 及び 100V レンジでは $0.1\sim 0.2\text{ppm}$ 程度、1V レンジでは $0.5\sim 1\text{ppm}$ といった極めて高い精度で校正が行えることを実証しました。
3. 同様に、開発したシステムを用いた DMM の直流電圧測定レンジでの校正は、システム固有の不確かさ（95%信頼レベル下での拡張不確かさ）が 10V 及び 100V レンジでは $0.1\sim 0.2\text{ppm}$ 程度、1V レンジでは $0.5\sim 1\text{ppm}$ といった非常に高い精度で校正を行えることを実証、以上 3 点を中心に実証結果を 2008 年秋季応用物理学会で発表を行いました。

なお、当社では（財）新技術開発財団から支援を得て、交流電圧校正システムも開発を行い、マルチファンクション・キャリブレータ、DMM の交流電圧校正システムも完成しております。従来開発済みの抵抗校正システムを加えて、直流電流・交流電流校正システムも実質的に完成しており、これでマルチファンクション・キャリブレータ、DMM の主要機能の校正の自動化と不確かさ評価の自動化は実質的に開発を完了しております。

2008 年秋季応用物理学会の発表内容にご興味のある方は、当社までご照会下さい。